



## 研究紀要の発刊に当たって

渡島教育研究所

所長 沢田 慶毅

渡島教育研究所は、渡島の教育課題に即した研究活動を推進し、渡島の教育の振興に寄与することを目的として開設され、今年で創立72年目となります。

当研究所は、目的の実現のために、次の方針をもち、事業を推進しています。

- 1 教育に関する時代の進展に即応した先導的な調査・研究活動
- 2 実践の改善を促進する教育図書・資料等の整備と貸出し及び研修・研究情報の提供と相談活動
- 3 全国・全道の教育研究所との共同研究による課題追究と各市町教育研究所及び各小中学校等との研究交流

さらに、渡島教育研究会連絡協議会事業の委譲を受け、各教育研究会（サークル）との連絡・調整等を行いながら渡島の教育の発展のために新たな歴史を刻んでまいりました。

さて、渡島教育研究所では、今年度、研究主題を「指導と評価の一体化 ～ループリックを活用した授業改善～」とし、管内の先生方へ「主体的で対話的で深い学びの実現」をどのようにして構築していくかを追究することとしました。子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かう事ができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要です。そこで、子供たち一人一人が学びにどのように向かっているかを捉えるためにループリックを活用し学習到達度の基準を明確にすることとしました。①公正な評価で児童生徒の学ぶ意欲に繋がるのではないか②授業作りのねらいが明確になるのではないかと考えました。

今年度は、この検証授業を菅原所員（大中山小学校）が行いました。また、昨年度から行っているOPPAも授業評価に取り入れ、『子供の視点』を授業に生かすよう努めました。1月行った共同研修講座では、鈴木教諭（砂原中学校）の実践を通し成果や課題を交流しながら授業評価について管内の多くの先生方と研修を深めることができました。今後このような実践が管内で広がり、さらに多くの先生方の実践が集まればと思います。また、渡島教育研究所では渡島管内の授業実践をデータで投稿して頂き共有財産として活用いくことも考えております。このような実践が渡島管内の子供たちの学習意欲の向上に繋がるものと願っております。

結びになりましたが、本年度の当研究所の諸事業や調査研究活動に当たり、北海道教育庁渡島教育局、北海道立教育研究所を始め、渡島町村会、管内市町教育委員会や各関係機関の皆様、管内市町教育研究所、管内各小中学校の皆様にはご理解とご協力をいただきました。心から感謝とお礼を申し上げます。